

令和4年度 第5回鈴鹿市立加佐登小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和5年1月26日(木) 15:30~16:25

2 場 所 加佐登小学校 少人数教室

3 あいさつ

(委員長より)大雪で大変な天気だったので通学路で児童を見守っていた。

(学校長より)新型コロナは現在広がっていない。大雪だったので白鳥中校区で本日は始業を1時間遅らせた。委員長には通学路の雪かきをしていただいたり、PTA 会長には横断歩道に立っていただいたりするなどたくさんの方にお世話になり、無事に登校できた。たいへんありがたい。

4 議事

(1) 学校関係者評価について(別紙)

【学校運営協議会委員の方より】※()の数字は評価項目の番号

(2) 「互いを尊重し、安心できる人間関係作り」について

- ・自己肯定感は大人でも難しい課題である。加佐登の数値が低いのは、市や他校と比べて低いのか分からないので、比べられる数値があると分かりやすい。
→教育界の課題でもある。学校だけで自己肯定感を上げていくのは難しい。
- ・自己肯定感を上げるために今年はどうな取り組みをしているのか。
→子ども同士でお互いのいいところを見つけ合う活動を学級等で行っている。少しずつ自信をつけていってほしい。

(6) 「学校運営協議会を中心としたコミュニティスクールの推進」について

- ・学校運営協議会の保護者への認知率は微増だが、今年から学校運営協議会委員にPTA 役員から2名加わってもらったのでPTA 会議で学校運営協議会の内容を報告してもらっている。
- ・学習ボランティアはどのような仕組みか。
→ボランティアの種類によって異なる。読み聞かせは毎週水曜日の定期的な取り組みで、希望学年と日程を伝えると読み聞かせの代表の方が、登録していただいている方の調整をしている。ミシン学習や校外学習の支援など定期的でないものはその都度、地域コーディネーターが声をかけて調整してくれている。
- ・ボランティアが来ると子どもの様子は変わるか。
→様子は変わらないが、喜んでいる。
- ・ICT の導入により丸付けをボランティアの方に依頼することがなくなった。これに代わるボランティアの種類を考えていくのが課題である。地域の長けた人を子ども

に聞くのは難しいと感じる。

(7)「教職員の働きやすい労働環境づくり」について

- ・どれもよい方向に向かっている。
- ・時間外労働は、若い先生ベテランの先生、男女、ポジションなど先生によって個人差があるのか。
→仕事を均等にしたいが個人差はでる。男女差ではなく立場によって偏りが出ている。
- ・男性も育休をとる時代だ。職員は家での仕事もあるので、定時で帰れるよう努力して欲しい。

○全体に関わって

- ・他校のよい取組を知ったり、他校と比較したりすることはあるか。
→管理職同士で情報交換等を行うことはある。
- ・目標値は各学校で設定しているのか。
→各学校の実態に応じて設定しているので、一概に他校と比較できない。
- ・先生はよく努力をしてもらっている。

(2) その他

- ・今後の学校関係者評価のスケジュールについて。
- ・卒業式に学校運営協議会委員と議員を来賓として招待する。
- ・白鳥中学校区学校運営協議会が始まる。委員長、副委員長、学校長が参加する。

5 教育支援課 加藤先生より

- ・不審者メールを2回配信した。急な対応をお願いした中、ほとんどの地区で付き添いや見守りをしていただいた。愉快犯の可能性が大きいですが、万が一のことを考えて子どもの安全を守っていただいた。
- ・10年に1度の大雪では始業を遅らせる措置をとったことで、子どもも安心して歩けた。加佐登地区は子どもを見守っていただいております、たいへんありがたい。
- ・学校関係者評価では、学校運営協議会委員の方からたくさんの意見をいただいた。また、学校の課題に対して具体的な方策を書いていただいております、学校として非常にありがたいことだ。年度当初の学校長の経営方針に対して、学校関係者評価で率直な意見をもらい、来年度の学校経営方針につなげていく。来年度、学校はいいスタートをきれる。
- ・教職員のやる気につながるので、管理職は学校運営協議会の協議の様子を、ぜひ教職員に伝えてほしい。